

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	株式会社ライト キッズステーションココライト名谷			
○保護者評価実施期間	2025年9月1日 ～ 2025年9月30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22名(内、兄弟姉妹2組)	(回答者数)	18名
○従業者評価実施期間	2025年9月1日 ～ 2025年9月30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	2025/10月6日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	バス体験や電車体験を活動内容に入れており、将来的に1人で公共交通機関を利用できるよう支援している。	公共交通機関を利用するには、切符購入やマナーなども実際に体験させ、生活スキルを積み重ねている。なお、子どもたちは主に福祉乗車証を使用しているため、その活用方法も併せて学んでいる。	交通機関体験を就労や社会参加へつなげるため、将来的には職場見学などとも合わせて実施していきたい。
2	食育において、子どもたち自身にメニューを考えてもらい、主体性や協調性を育んでいる。	食育では、話し合いの場を通して子ども同士の意見交換を促し、役割分担や協力して調理に取り組む体験を大切にしている。	食育活動では、季節の食材や栄養バランスについて学ぶ機会を取り入れ、家庭とも連携した取り組みを進めていきたい。
3	保護者参加のイベントを年に数回開催しており、参加が見られなかった保護者の参加も増えつつあるため、今後も継続することで関りや輪を広げて頂く。	親子でイベントに参加して頂くことで子ども同士の繋がりから会話するきっかけができたり、まずはどんな人がいるのかお互いに顔を覚えていただくだけでも参加してもらおう意味があると考えている。	更に回数を重ね家族参加のイベントが盛り上がり、また得るものがあるように内容にも配慮したい。今年度は講師を招いての勉強会も開催でき、そちらは今後も継続したい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	外出の機会は持っているものの地域との交流が希薄である。	活動の中で事業所外の方々と会話する機会はあるもののわずかな関わりであることが多く、交流をメインとした外出ではなかった。	もう少し積極的に地域交流を目的とした外出やイベントを計画する必要がある。
2	全くない訳ではないが関係機関との連携の機会や放課後等デイサービスとの横の繋がりがまだまだ少ない。	必要最低限での関係機関との関わりに留め、それ以上の関わりに積極的ではなかった。	受け身な連携に留めずに、積極的に連携の機会を持つ。 他事業所のイベントへの参加、当事業所への招待を進める。
3	父母会や保護者が交流できる場を設ける機会が希薄である。	日常的に保護者同士が顔を合わせる機会が少なく、情報交換や交流のきっかけが少ないため、保護者間で連携が深まりにくい。	・年に数回、父母会や保護者交流会を開催し、保護者同士が情報交換や相談をしやすい場をつくる。 ・子どもの活動報告や意見交換を通じて、家庭と事業所が一体となった支援につなげる。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		株式会社ライト キッズステーションココライト名古屋					公表日		2025年10月6日		
							利用児童数	22名(内、兄弟姉妹2組)		回収数	18名
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応			
環 境 ・ 体 制 整 備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	17	0	0	1	特になし	今後も十分なスペースを確保する。			
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	13	2	0	3	特になし	今後も基準を満たした人員配置を行い支援を行っています。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	15	0	0	3	特になし	今後、必要に応じ配慮を行います。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	17	1	0	0	特になし	引き続き衛生面でも環境面でも活動に合わせた空間づくりを行います。			
適 切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	18	0	0	0	特になし	職員一人一人が、お子様への理解や専門性を高めることができるように精進します。			
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	18	0	0	0	特になし	公表する支援プログラムに合わせて支援やサービスを提供します。			
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	17	1	0	0	特になし	今後も丁寧にアセスメント・支援の実施・評価を行い、適切な個別支援計画の作成・更新を行っています。			
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	18	0	0	0	とても詳細な内容を支援計画書に盛り込んで共有していただき大変ありがたく思います。	今後も、お子様の支援に必要な目標を適切に設定し、一人ひとりに合わせた具体的な支援を意識しながら、計画作成に努めます。			
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	16	1	0	1	特になし	計画に沿った支援を行い、必要に応じ家族への報告や相談も行います。			
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	18	0	0	0	特になし	お子様や家族の意見も取り入れながら固定化されないように努力します。			
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	3	1	5	9	特になし	積極的に交流の機会が持てるよう検討します。			
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	17	1	0	0	特になし	今後も丁寧に説明を心掛けます。			
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	17	1	0	0	特になし	今後も丁寧に説明を心掛けます。			
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	15	1	0	2	進路説明会が該当するのかわからない。	これまで以上に家族支援や研修会が充実できるよう努力します。			
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	18	0	0	0	特になし	今後も小さな変化にも目を向け保護者との連絡を密にし共通理解が出来るよう努めます。			
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	18	0	0	0	特になし	受け身ではなく積極的に行います。			
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	18	0	0	0	特になし	引き続き共感的支援に努めます。			
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	7	2	2	7	特になし	保護者だけでなく兄弟姉妹の交流の機会も積極的に検討します。			
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	18	0	0	0	特になし	今後も相談いただいた際には、迅速かつ適切な対応に努めます。			
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	18	0	0	0	特になし	今後も送迎時などに保護者の方への伝達を丁寧に言い、お子様との関わりの中では気持ちを汲み取りながらやり取りが行えるようにしていきます。			

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	18	0	0	0	特になし	今後も積極的に発信します。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18	0	0	0	特になし	引き続き取り扱いには十分留意します。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	18	0	0	0	特になし	保護者への周知に努め、より具体的に発生を想定した訓練の実施に努めます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	18	0	0	0	特になし	発生に備え必要な訓練を実施します。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	18	0	0	0	特になし	職員へ定期的な周知に努め、個々が危機感を持って支援します。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17	0	0	1	特になし	今後も速やかな連絡や対応に努めます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	18	0	0	0	特になし	安心感のある環境や人間関係作りに努めます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	17	0	0	1	特になし	楽しみを持って色々なことに挑戦しながら一人一人が成長し、活動を通じて他児童との関わりを深めることができるようサポートします。
	29	事業所の支援に満足していますか。	17	1	0	0	特になし	現状を維持しつつ、更に満足していただけるように努めます。

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		株式会社ライト キッズステーションココライト名谷		公表日		2025年10月6日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	0	日々の利用者定員を10名までに制限している為、広さには問題はない。	部屋を増やしたり、大きくすることは不可能なので、スペースを有効に使用する必要がある。運動スペースが十分ではない。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	9	0	子どもの状況や外出の際には人手を増員している。	引き続き継続を行う。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	1	何がどこにあるか分かりやすいよう視覚的支援を行っている。	現在の利用児童には適切だと思うが、今後、新規児童の状態により、手すりなど必要になるおそれがある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	1	衛生面には気を使い掃除や消毒をしている。	活動に合わせた空間という点では不十分であり、運動スペースが十分ではない。。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	2	落ち着いた環境で宿題をしたい・静かな環境が必要という児童には予め座席の指定や、パーテーションを使用している。	クールダウンを行うスペースはあるが環境整備が乏しい。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9	0	申し送りや反省会、会議で情報共有を行っている。その日、欠席者には、施設全体のLINEWORKSで議事録やモニタリングでの内容を共有している。	今後、全職員で取り組むよう努力する。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1	会議や日々の反省の場で職員へ周知している。	これまで以上に声掛けや保護者の思いに耳を傾け、迅速な業務改善に努める。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	申し送り、毎日の反省会や会議等で話し合いの時間を設けている。	個別面談を定期的な実施に努め、迅速な業務改善に努める。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	9	特になし。	未実施	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0	個人のまた事業所としてもスキルアップしていけるよう資格取得の支援がある。	義務化された研修は実施しているが、資質向上のための研修には積極的な参加が必要。その際には研修後の情報共有も行う。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	0	ホームページに支援プログラムを公表している。	今後も適切にプログラムを作成し、公表していく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等ディサービス計画を作成しているか。	9	0	子どもと保護者のニーズや課題のバランスに十分に配慮し計画を作成している。	子どもの成長は早くアセスメント時とのタイムラグもありその時々での見直しが必要。特に初回は時間を要しても細かな情報収集が必要。	
	13	放課後等ディサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	0	会議や日々の反省の場で職員へ周知しており、共通理解に努めている。	これまで以上に全職員で共通理解を深める。	
	14	放課後等ディサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	0	カンファレンスを開催し計画内容を共有している。	共有は出来ているが実際の支援を振り返る落とし込みが不十分な点もあるため、これまで以上に計画に沿った支援の実施に努める。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	0	フォーマル・インフォーマルの双方でアセスメントを行っている。	各児童ごととファインリングしてあるが、年度ごとや状況の変化で更新が必要。	
	16	放課後等ディサービス計画には、放課後等ディサービスガイドラインの「放課後等ディサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	1	具体的な支援内容の設定を心掛けている。	より具体的に誰が見ても分かりやすい表現や支援内容の設定を意識する。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	2	活動プログラムについては準備、実施、反省にはチームで意見を出し合っている。	活動プログラムについては準備、実施、反省にはチームで意見を出し合っているが、それを基に個人が立案書を作成しているため、立案書作成に関してもチームで行っていく。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	0	基本的な活動プログラムは決まっているが、児童ごとに偏りのないようローテーションしている。	同じ活動であってもステップアップしていけるよう工夫する。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9	0	集団活動の中にも個別の目標を設定しながら計画の作成、支援を実施している。	引き続き組み合わせた作成・支援を心掛ける。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	0	活動の内容によっては細かな役割分担表などを作成している。	事前に打ち合わせは行っている。今後は当日も打ち合わせを綿密に行っていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	0	当日出勤のない者にも後日確認できる仕組みはある。	引き続き振り返り・共有する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	1	支援経過に加え申し送り(反省・振り返り)シート、LINEworksに記録し職員に周知しながら検証し改善に向けて取り組む。	引き続き記録、検証・振り返りを行う。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0	保護者または子ども自らの申し出や、事業所として気になる点があれば必要に応じて旗艦を早めた見直しの実施。	引き続き適切に行う。
関係機関や保護者との連携	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	9	0	特になし。	地域交流の機会の提供については外出活動は行っているが交流までは繋がっていない。積極的に機会を増やす。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9	0	活動によって子どもたちが主体的にどのような内容にするか考え意見を出し合う機会がある。食育のメニューや外出の行きたい場所を話し合う場を設けている。	引き続き自己決定の機会を支援する。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	0	サービス担当者会議や関係機関との会議に参加している。	引き続き子どもの状況把握に努める。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	0	必要に応じて連携している。	現在、少しずつ関係機関との連携を広げているように動いているが、これまでは必要最低限の連携で学校、相談支援事業所のみ留まっている。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9	0	送迎時に学校の先生とのコミュニケーションや必要に応じて電話での情報交換も設けている。	さらに各学校の教員との関わりを増やす。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	0	9	特になし。	就学前の関係事業所との直接的な情報収集や情報共有ではなく家族を通じて情報を得ているが、事業所間での情報共有も進める。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0	9	特になし。	卒業後に障害福祉サービス等への移行事例がない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	2	特になし。	地域の児童発達支援センターとの積極的な関わりに努める。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	3	外出の際には利用児童の見守りが不十分にならない配慮をし、その場に居合わせた子どもが輪に入りやすいよう雰囲気作りや受け入れ姿勢で活動している。	交流の機会は現在までないため、積極的に機会を増やす。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	0	9	特になし。	自立支援協議会へは参加の意向はあるが現在まで参加実績はない。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	0	連絡帳や電話連絡だけでなく送り迎えの際にもコミュニケーションを大事にしている。	引き続き共通理解を深める。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0	9	特になし。	現在、進行中である。講師を招いての研修の機会を増やしていく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	0	契約時に丁寧な説明を心掛けている。	引き続き丁寧な説明を行う。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0	常日頃から子どもや保護者に寄り添った支援を心掛けている。	引き続き寄り添い、傾聴する。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9	0	丁寧な説明を心掛けている。	引き続き丁寧な説明を行う。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	0	相談に適切に対応し必要に応じた助言を行っている。	引き続き適切な対応に努める。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	7	夏まつりや運動会、クリスマス会に招待。	イベントへの招待はしているが交流としては昨年から再開した懇親会のみで現在その他の機会を検討中である。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0	苦情に限らず何かあった際には気軽に職員にお伝えいただき、迅速かつ適切な対応を心掛けている。	引き続き迅速かつ適切に対応する。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	0	写真を多く使い活動や行事の様子を通信や、武断からLINEでも送信している。	引き続き発信する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0	個人情報に係る書類は鍵のかかる書庫で保管している。	会社として個人情報の取り扱いを行っているが、更に厳重な取扱いに努める。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	0	筆談や絵カードの活用やジェスチャーで行っている。	引き続き配慮する。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	9	特になし。	これまでも地域の方々を招待したいと考えたり話し合いは行ってきたが実績はないが、現在前向きに進行中。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	0	適時、訓練を行っている。	マニュアル自体は存在するが、発生を想定した訓練の充実に努める。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	0	特になし。	策定はできているが、訓練の充実に努める。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	0	初回アセスメントで保護者に聞き取りしている。	引き続き注意を要する児童に対しては掘り下げて確認する。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	0	初回アセスメントで保護者に聞き取りしている。	医師の指示書ではなく、家族からの情報で相談しながら支援を実施しているため、家族に医師の指示書についても確認する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	0	安全面には十分に気を配り支援を行っている。	個々の危機管理意識の向上が必要。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	7	契約時に丁寧な説明を心掛けている。	定期的な周知の機会が必要。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0	危険なことがあれば日々の反省で報告し合い書面にも残している。	小さなことにも敏感に事故に繋がる可能性を意識する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	0	研修の実施。	既定の研修だけでなく日頃から申し送りや反省でも職員に周知徹底する。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9	0	説明・記載している。	自らの行動が身体拘束に当たらないか常日頃からの意識を高め支援を行う。